

## 刊行によせて

---

神奈川大学日本常民文化研究所は、戦後間もなく行われた漁業制度資料調査による史・資料 25 万点を含む膨大な資料を所蔵し、また民具研究を中心に長年にわたり「常民」、すなわち庶民の生活文化に関する多方面の調査・研究を行ってきました。その実績が評価され文部科学省の 21 世紀 COE プログラムに採択され、「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003 ～ 2007 年度）の拠点となり、その後、事業は同研究所に付置された非文字資料研究センターに引き継がれています。さらに、2009 年度には国際常民文化研究機構として文部科学省から共同研究拠点に認定され、5 年度にわたる事業を推進することになりました（「平成 21 年度人文学及び社会科学における共同研究拠点の整備の推進事業」、現「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」）。

機構設立の目的の一つは、日本常民文化研究所の創設者・澁澤敬三（1896 ～ 1963）の「ハーモニアス・デヴェロップメント」精神を受け継ぎ、国内・外の研究者コミュニティに広く「常民文化」研究の史・資料と場・機会を提供し、その学際的・国際的展開をはかり、研究分野を拡大、深化させることにあります。そのために、当該学界・研究者コミュニティの意見の反映を諮り学外の研究者が過半数を占める運営委員会を組織し、その論議のもとに、5 つの研究分野、1. 海域・海民史の総合的研究 2. 民具資料の文化資源化 3. 非文字資料（図像・身体技法・景観）の体系化 4. 映像資料の文化資源化 5. 常民文化資料共有化システムの開発 を設定し、応募条件をホームページ上に公開するなど広く年度ごとに公募を呼びかけ、プロジェクト型共同研究を進めることにしました。その結果、上記の 5 研究分野に応じ下記の 8 課題、

- 1-1 漁場利用の比較研究（研究代表者 田和 正孝）
- 1-2 日本列島周辺海域における水産史に関する総合的研究（研究代表者 伊藤 康宏）
- 1-3 環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究（研究代表者 後藤 明）
- 2-1 民具の名称に関する基礎的研究（研究代表者 神野 善治）
- 2-2 東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史（研究代表者 角南 聡一郎）
- 3 アジア祭祀芸能の比較研究（研究代表者 野村 伸一）
- 4 アチックフィルム・写真にみるモノ・身体・表象（研究代表者 高城 玲）
- 5 第二次大戦中および占領期の民族学・文化人類学（研究代表者 泉水 英計）

が設定され、80 人余の共同研究者がつどうことになりました。研究代表者には神奈川大学以外に所属する最適任者が選任されましたが、4 と 5 は、日本常民文化研究所が所蔵する資料を直接扱い、諸権利関係も存在するため神奈川大学の教員が任じることになりました。

本書は、そのうちの、2-2「東アジアの民具・物質文化からみた比較文化史」（研究代表者 角南 聡一郎）班の研究成果の報告書となります。

日本の伝統的民具には、中国からの直接的・間接的影響や移入から生まれたものが多く見られます。通称・角南班では、日本と中国・韓国の民具を民俗学・考古学・文化人類学・移民研究といった学際的視点から比較し、共時的に両者の共通性と差異性を明らかにしようと試みました。研究対象としては、生（日常生活と関連するモノ）と死（葬送墓制や慰霊などと関連するモノ）という人の一生にかかわる民具・物質文化を中心に扱い、また、対象とすべき資料の中核に戦前に収集されたア

チックミュージアムのコレクションを据えて、その戦前・戦後の変遷に焦点を当てながら、民具に顕現した物質文化の性格から中国・韓国と日本との比較文化研究を具体的資料に基づいて検討してきました。異文化の比較においては、言葉の制約もあり祖先崇拜における心意・信仰意識などは、なかなかその核心に迫れませんが、位牌や墓など可視的な物質文化から読み取れる情報を合わせるにより、資料性をより一層高めることができると考えたからです。

その研究経過の一端は、機構主催の第2回国際シンポジウム「“モノ”語り—民具・物質文化からみる人類文化」（2010年12月11日・12日）で、すでに披露されましたが、本書ではグループの共同研究の目的が明確に認められる形で提示されました。これは、「民具マンスリー」をはじめとする日本常民文化研究所の長年の実績、神奈川大学21世紀COEプログラム、非文字資料研究センターで取り組んできたマルチ言語版生活絵引の翻訳の作業実績などを継ぎ、新たに国際常民文化研究における民具、物質文化研究の意義と方向性を示したものとと言えます。

限られた調査研究条件のもとで力作・労作をものにされた執筆者の諸氏にこの場を借りて改めて謝意を表したいと思います。

2013年3月吉日

神奈川大学日本常民文化研究所長  
国際常民文化研究機構運営委員長

佐野 賢治